

「お前の家は一向宗か。おれもそうだ。久しぶりだ。拜ましてくれ。」

彼はよごれた両手を合わせて念仏をくりかえした。

「もう兵隊もいった。心配するな。おれも遅れると隊長に叱られる。子どもを大事にしてあげな。戦争が終わったらおれも広島に帰る。では元気でな。」

ナカは涙が出てとまらなかった。これが鬼の官軍だろうか。いやアミダさまの身代りではなからうか。

初五郎はスヤスヤと眠っている。ナカは後で知った。安芸門徒といって広島の人是非常に信心深いということ。

《第二十二話》

正直者の丹二（大川原）

むかし。

大川原の山合いに丹蔵という若者が住んでいました。日夜家業に精を出して働いていましたが、